

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 5 日

1. 職名・氏名 助教・藤田 祐子

2. 学位 学位 博士、専門分野 保健学、授与機関 金沢大学大学院、授与年 2020 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 セルフケア支援論 （2 単位）2 年次後期
②内容・ねらい 慢性疾患の特徴や慢性疾患を持つ患者の健康障害を理解し、慢性的な健康障害をもって生きる人に看護を提供するための知識・技術を教授する。さらに、慢性疾患のセルフケアが上手でできずに、急性増悪した際の治療および看護についても教授する。また、社会資源の活用や患者とその家族を支える保健医療福祉制度、多職種連携と退院支援等を教授する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 糖尿病看護と腎不全看護の 4 コマを担当した。学生が看護を学ぶ上で、既習の学習と結びつけながら学習できるよう教育を行った。また、4～5 人グループでディスカッションする時間を設け、看護について自ら考え学べるよう工夫した。動画視聴や実際の患者用パンフレット、練習用インスリンペンを提示して、患者像をイメージできるよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 緩和ケア論 （1 単位）2 年次前期
②内容・ねらい 緩和ケアの概念を理解するとともに、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人と家族の心理を理解し、苦痛の緩和を考える。さらに、生きること考える死生観も養う。この授業では領域横断の科目とし、成人期および老年期における終末期の特徴と緩和ケア、小児における終末期の特徴と緩和ケア、精神疾患を持つ人の緩和ケア、在宅における緩和ケアをオムニバス形式で講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「人生の最期を考える」と題して、学生 4 人を 1 グループとし、もしバナゲームを通して自分が大切にしている価値観、他者の価値観を知る機会を設けた。3 年後期の実習で患者と関わる際の一助となるよう、緩和ケアを受ける患者の動画視聴を取り入れ取り組みやすくする工夫を行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 セルフケア支援演習 （1 単位）3 年次前期
②内容・ねらい 慢性疾患の発症や慢性疾患の急性増悪で治療を受ける患者および家族を理解し、健康的なライフスタイルの調整や退院後のセルフケア行動の獲得に向けた支援を学ぶ。事例を用いてアセスメント、看護計画立案し、看護技術演習では実践を学ぶ。少人数のグループ討議を中心に個別学習を進める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 後期のセルフケア支援実習および緩和ケア実習に向けて、セッション 1～2 に分け、セッション 1 ではがん化学療法を受ける患者の事例展開、セッション 2 では急性増悪した心不全患者の事例展開を行う。看護技術演習では抗がん剤を受ける患者の看護、点滴投与中、酸素療法中の患者の移乗移動について 4 人編成のグループで実施した。演習は、個人ワークとグループワークとし、教員 3 人で 4 グループずつ受け持ち、少人数指導による学生の個別性に合わせたきめ細かい教育を行っている。学生が理解しにくい点について積極的に解説を行った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

緩和ケア実習（2 単位）3 年次後期

②内容・ねらい

緩和ケアを必要とする患者とその家族の苦痛を全人的な視点から理解し、QOL の向上を目指した緩和ケアおよび看護師の役割について考える。また、緩和ケアチームや多職種連携などチームアプローチの必要性を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

病態や検査、治療、看護が既習の学習と結びつくよう学生のレディネスに合わせた教育を心がけている。また、学生が主体的に行動できるよう、教員に相談しやすい雰囲気づくりに努めている。カンファレンスでは、対象の全体像や看護上の問題、学生自身が患者との関わりで困っていることなどを持ちより、自己の課題と学生の学びが最終目標に向かうように指導している。臨死期にある患者を看護する際は、学生の心理的負担を考慮して指導を行っている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（3 単位）4 年次通年

②内容・ねらい

看護実践を発展させるための看護研究のプロセスを理解し、研究態度を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生が関心のあるテーマについて、研究テーマの決定、研究計画立案、倫理的配慮、データの分析、考察、論文執筆の一連の研究プロセスについて指導を行った。1 名は県内の高校にインタビュー調査を実施することができた。1 名は本学の A サークルを対象に Web アンケート調査を実施することができた。実習や就職活動、国家試験対策に影響が出ないように、学生のスケジュールを鑑みて進めていくことを心がけた。

(2)その他の教育活動

内容

- ・ 福井赤十字病院看護研究指導
院内研究発表会に加えて、次年度の第 57 回日本看護学会学術集会に演題登録予定である。
- ・ 開放講義 羽水高校 7 月 11 日

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等 ・ 性格特性による糖尿病患者タイプ分類の試み—性格別 運動療法の特徴— 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 2025 年 9 月 21 日（筆頭演者） ・ 災害支援透析を受ける血液透析患者を看護した看護師の経験 第 28 回日本腎不全看護学会学術集会・総会 2025 年 11 月 30 日（共同演者）	【2 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 ・ 科学研究費助成基金若手研究 継続【延長】 生活背景因子による糖尿病患者タイプ分類の試み—療養行動支援に向けて— 研究代表者 【学内】 ・ KF 枠研究費 子どもに対する災害への備えに関する実態調査研究 ～大災害時における青年期の子ども にとってやさしい避難所の在り方について～ 研究代表者	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読者 2020 年 10 月から現在 ・ 日本腎不全看護学会 専任査読者 2021 年 9 月から現在 ・ 日本腎不全看護学会 研究委員会 2025 年 11 月から現在	

5. 地域・社会貢献活動

・公開講座「ゲームを通して人生会議をしてみませんか？」 7月12日 地域経済研究所で実施した。もしバナゲームを通して人生の最期を考える上で、自分が大事にしている価値観を認識してもらった。参加者4名であった。 ・第51回北陸小児糖尿病サマーキャンプ ボランティアスタッフ 2025年8月9日,10日の二日間、夜間の診療班として患児の体調管理を行った。

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
【看護福祉学部内】 ・研究活性化WG ・フィンドレー大学 看護・福祉短期研修 引率 【看護学科内】 ・総務係 ・オープンキャンパス係
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス（オンライン） 8月24日
(4)その他、自発的活動など
・産学官連携関係規程類の運用に係る学内説明会 参加 4月10日 ・モデル・コア・カリキュラム ウェビナー 参加 7月14日、7月30日 ・業務を1/2にする生成AI活用セミナー 参加 7月15日 ・利益相反マネジメントセミナー 参加 7月31日